

2005年版

世界

軍事

情勢

(財)史料調査会・編



原書房

000
H05
813

2005年版

世界

軍事

情勢

江苏工业学院图书馆
藏书章

財史料調査会・編

原書房

〔編 者〕

財団法人 史料調査会

所在地：〒141-0021 東京都品川区上大崎2-10-45

TEL : (03) 3441-5330

FAX : (03) 3441-9650

交通便：JR山手線目黒駅又は

東急目黒線目黒駅から徒歩5分

現在 : 毎月1回 (第3木曜日午後)

軍事情勢研究会を開催

前半 招聘講師の特別講話

後半 会長の世界軍事情勢解説

毎年初め、1994 (平成6) 年から

『世界軍事情勢』(年鑑) を刊行

せ かい ぐん じ じゅう せい
世界軍事情勢 2005年版



2005年3月5日 第1刷

編者……………^{さいだんほうじん}財団法人 ^{しりょうさうさかい}史料調査会

装幀……………田口良明

発行者……………成瀬雅人

発行所……………株式会社原書房

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-25-13

電話・代表03(3354)0685

<http://www.harashobo.co.jp>

振替・00150-6-151594

本文組版・印刷……………株式会社平河工業社

カバー印刷……………株式会社明光社印刷所

製本……………株式会社壺屋製本

ISBN4-562-03876-4 ©2005, Printed in Japan

序

当史料調査会は、昭和21年文部省の財団法人として、史実の調査研究と軍事情勢資料の収集及び提供に努め、その一貫として、毎月研究会を実施、平成6年から本年鑑を編集してきました。

この間、平成10年北朝鮮の弾道ミサイル発射、平成13年米同時多発テロ事件突発、続いて米テロ壊滅作戦、平成15年米英のイラク戦争へ発展、一方北朝鮮の核開発問題緊急課題に急浮上し、国民の関心と緊張一段と高まり、月例の軍事情勢研究会は熱心な研究者を得て、年々盛況を呈してきました。

本書は、一般に公表、報道された資料を基に、1年間の研究成果を集約し、全世界の軍事情勢の動向を、具体的に把握、確認して頂くことを主眼に編集、今回で既に創刊12年目を迎えました。

国際社会がよりグローバル化し、情報の流れは時々刻々、スピードアップ化し、国際環境日毎に厳しさを増しつつある現在、

——わが国を取り巻く戦略環境と地域情勢を正しく理解するには、

常に変転する全世界の軍事情勢の把握が不可欠であります——

本書が、そのための身近な書として、ご活用戴ければ、本望であります。

編集にあたり、貴重なご意見や激励のお言葉を寄せられた方々と、出版に際し、格別のご尽力とご協力下さった原書房の成瀬雅人社長始め同社の方々に、改めて厚く御礼申し上げます。

平成17年1月

財団法人 史料調査会

会長 田 尻 正 司

世界軍事情勢 1994年版

A 5 判・並製・394頁・定価3873円(税込)

世界軍事情勢 1995年版

A 5 判・並製・474頁・定価4384円(税込)

世界軍事情勢 1996年版

A 5 判・並製・380頁・定価4077円(税込)

世界軍事情勢 1997年版

A 5 判・並製・334頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 1998年版

A 5 判・並製・352頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 1999年版

A 5 判・並製・344頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 2000年版

A 5 判・並製・384頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 2001年版

A 5 判・並製・388頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 2002年版

A 5 判・並製・376頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 2003年版

A 5 判・並製・392頁・定価3990円(税込)

世界軍事情勢 2004年版

A 5 判・並製・384頁・定価3990円(税込)

太平洋戦争を証言する
不朽の名著

宇垣纏著

戦藻録

宇垣纏日記

開戦当時連合艦隊参謀長、以後作戦の中枢にあつた海軍中将・宇垣纏の日記。開戦二カ月前から終戦当日の沖縄突入飛行直前までを克明に綴る。太平洋戦争研究の最重要文献。
第一段作戦／第二段作戦／マリアナ作戦／比島沖作戦／沖縄航空決戦／終戦

6300円(税込)

『坂の上の雲』に登場する名著
ロシア水兵が見た日本海海戦

ノビコフ・フリボイ 著

上協進訳

ツシマ

上 バルチック艦隊遠征
下 バルチック艦隊壊滅

日露戦争の帰趨を決した対馬沖日本海海戦。戦艦アリヨールに乗り組み、歴史的な戦いに参加した作家が、水兵たちの見聞した事実を圧倒的な臨場感で描いた記録文学の金字塔。帝政ロシアが誇る大艦隊の遠征から激戦、その最期まで。第一回スターリン文学賞受賞作品。解説Ⅱ大江志乃夫。各1995円(税込)

世界軍事情勢 2005年版 目次

序

会 長

第1部 世界軍事情勢の概観

田尻 正司 1

1. 2004年 軍事情勢の全般的動向と特色3
2. 複雑多様な地域紛争、テロ続発、拡大、激化5
 - (1) 2004年 地域紛争の全般的動向5
 - (2) 米英、6月28日イラク占領統治主権返還7
 - a. 米英・CPA、6月末主権移譲へ全力
 - b. 7月7日 イラク国家安全法発表、即日施行
 - c. 8月15～18日 国民大会議、無投票で評議員決定
 - d. 治安、反米テロ無差別、巧妙激化
 - e. イラク復興、治安悪化で停滞
 - f. 新イラク軍、治安部隊育成難航、遅れ
 - g. 大量破壊兵器（WMD）証拠、遂に見つからず
 - h. イラク戦犠牲、戦闘終結後日を迫って激増
 - (3) 露・CIS内、テロ続発、治安年々悪化16
 - a. 首都モスクワ、テロ続発、警戒態勢続く
 - b. 露、チェチェン武装勢力掃討、成果上がらず
 - c. 北オセチア学校占拠テロ事件、数百名犠牲
 - d. グルジア、自治共和国独立問題再燃
 - e. ウクライナ、大統領決選投票契機に一時混乱
 - (4) 中近東、テロ各地で続発、危機続く20
 - a. パレスチナ問題、血みどろの抗争のなか、アラファト議長死去
 - b. シリア、イスラエル・EUと復交、国際社会復帰へ

- c. レバノン、駐レバノン外国軍撤退、安保理決議
- d. サウジアラビア、駐留米軍撤退後、治安悪化
- e. トルコ、過激派テロ事件相次ぎ、治安悪化
- f. キプロス、再統合不調、分断固定化へ
- g. イエメン、過激派武装勢力、掃討に成果
- (5) アフリカ、依然民族・部族紛争、内戦続く24
 - a. リビア、WMD完全放棄、テロと決別
 - b. コンゴ（旧ザイール）内戦、依然続く
 - c. コートジボワール内戦、新たにPKO展開、和平回復
 - d. スーダン内戦激化、大量難民発生する中、一部停戦へ
 - e. ナイジェリア、石油資源めぐり内紛
- (6) 南西アジア、アフガン依然不安定な情勢続く28
 - a. 印パ対立、停戦・和平推進合意
 - b. アフガニスタン、テロ掃討・軍閥解体難航
 - c. ネパール、共産ゲリラ活動衰えず、治安益々悪化傾向
 - d. スリランカ、LTTEとの和平交渉、再び不調
- (7) 東アジア、依然一触即発、緊張状態続く32
 - a. 中台（米）、軍事的対立、年々緊迫
 - b. 朝鮮半島、北の核ミサイル増強で逐年緊迫
 - c. フィリピン、米全面協力でテロ鎮静化
 - d. インドネシア、米テロ掃討・民主化へ協力
 - e. タイ、南部イスラム系地域、治安悪化
 - f. 東南アジア海域、海賊、テロ事件逐年増加、凶悪化
 - g. 12月26日 スマトラ沖大地震、未曾有の大津波災害
- 3. 国連、WMDとテロ問題で一層の活躍を38
 - (1) 国連加盟国、191か国のまま38
 - (2) 2004年 第59回国連総会、一般演説は38

(3) 安全保障理事会、非常任理事国改選	39
(4) 国連（安保理）改革、ようやく始動	39
(5) 国連の和平維持活動（PKO）は	40
(6) FY2004 国連分担金は	41
(7) 難民の発生、依然アフガン中心にアジア最多	41
(8) エイズ（HIV）、年480万人感染、200万人死亡	42
(9) 2004年 ノーベル平和賞マタイ・ケニア環境活動家へ	42
 4. 軍事3大国は	43
(1) 米、脅威への柔軟対応重視へ軍再編	43
a. 2004年 米軍事戦略の新しい動向	
b. FY2005 米国防費前年度比7%増	
c. 21世紀向け、米軍再編戦略	
d. 米国土の安全保障体制の強化、確立	
e. 01. 9. 11 米中枢同時テロ調査報告発表	
f. 国際テロ壊滅とWMD拡散阻止へ全力	
(2) 露・CIS、テロ続発凶悪化へ露国防費28%増	51
a. 2004年 ロシアの施政方針と重要課題は	
b. FY2005 露国防費前年度比28%増	
c. 露軍再建近代化と大規模演習実施	
d. 露・CIS内テロ続発、凶悪化に苦慮	
e. 上海協力機構（SCO）露、対テロ協力、基地建設	
f. 露、イラク特需で軍需産業活況	
(3) 中国、軍20万人削減・装備近代化へ	57
a. 2004年 中国の施政方針と重要課題は	
b. FY2004 中国国防費16年連続2桁増額、維持	
c. 2004年 中国の軍事戦略と装備近代化の動向	
d. 中国、大国の権威確立へ核ミサイル着実に増強	

- e. 中国、有人宇宙船成功に弾み、宇宙開発次々
- f. 台湾、ミサイル防衛最優先に、米兵器導入・軍近代化へ全力

5. 主要な地域情勢の動向	65
(1) アジア太平洋地域、年々緊迫化	65
a. 米、アジア世界戦略拠点化へ再編	
b. ASEAN拡大13か国 安保共同体創設へ	
c. 東南アジア友好協力条約（TAC）拡充	
d. ARF、安全保障政策会議開催へ	
e. ASEM、13か国加盟、国際的問題解決へ	
f. APEC、貿易投資の自由化と人間の安全保障宣言	
(2) 朝鮮半島、北の核保有・放棄めぐり緊張続く	68
a. 北朝鮮、悪の枢軸、無法者と罵れ、動揺、硬化	
b. 北のWMD開発、保有の動きと実体は	
c. 北朝鮮の核問題めぐる6か国協議は	
d. 北軽水炉建設、04年11月更に1年中断	
e. 北朝鮮脱出者、激増、地域最大の人道、治安問題化	
f. 在韓米軍、2008年までに1/3、3段階削減	
g. 韓国軍、自主国防態勢拡充へ拍車	
h. 韓国核開発疑惑、IAEA一時重大な懸念	
(3) 東南アジア・豪、主要国軍備拡充の動向	75
a. タイ、米との合同軍事演習逐年拡大、充実	
b. マレーシア、タイとの国境地帯警備強化	
c. シンガポール、マラッカ海峡の監視強化	
d. インドネシア、テロ治安対策最優先に	
e. 東チモール、治安回復、経済再建最優先に	
f. フィリピン、米国の全面協力で治安確保	
g. カンボジア、シハモニ新国王即位、一新へ	

- h. ベトナム、南沙諸島の開拓、活用へ
- i. ミャンマー、軍政独裁下、ようやく拘束者大量釈放へ
- j. 豪、米英に全面協力、地域最大の協力国、国民高支持
- (4) 南西アジア、中近東、依然緊張状態続く78
 - a. インド、米露と軍事協力拡大、軍備拡充へ
 - b. パキスタン、核開発ルート発覚、親米路線推進
 - c. イラン、米及びIAEA等警告無視し、核開発推進
- (5) ヨーロッパ、NATO・EU拡大、新秩序建設へ.....82
 - a. NATO、4月2日7か国加盟、26か国体制へ
 - b. EU、5月1日10か国加盟、25か国体制へ
 - c. 英、米イラク作戦協力継続へ苦境続く
 - d. 仏、イラク侵攻めぐる米英との対立、和解へ
 - e. 独、米英イラク作戦（復興支援）協力へ移行
 - f. 欧州、イラクへの主な派兵国の現状
- (6) 中南米、依然不安定な政治、治安情勢続く88
 - a. 米州首脳、政治腐敗防止と貧困撲滅宣言
 - b. ハイチ動乱、アリスティド大統領亡命、PKO展開
 - c. キューバ、カストロ議長独裁で周辺国と関係悪化
 - d. パナマ、米と運河通航船臨検協定調印
 - e. ブラジル、テロ拠点化、核関連物生産等で治安悪化
 - f. コロンビア、テロ掃討強化、治安情勢依然不安定
- 6. 軍事技術開発の動向91
 - (1) 2004年 軍事技術の開発と生産の主な動向91
 - (2) 軍事3大国、軍需産業の動向91
 - a. 米、軍需産業、新兵器開発へ活況
 - b. 露、通常兵器の開発、生産、輸出1位独占
 - c. 中国、宇宙開発で米露の仲間入りへ

(3) 国際宇宙ステーション (ISS)、米打上げ再開遅れ	93
(4) 米、火星探査車、見事に任務達成	93
(5) 米、ミサイル防衛 (MD)、04年配備開始	94
(6) 新兵器開発の動向	95
a. 露、新型戦略ミサイル開発・配備へ	
b. 米、露、使える小型核開発推進	
c. 米、対テロ防衛機器産業、急伸	
d. 米、最先端情報技術 (IT) にも落とし穴	
 7. 軍縮・軍備管理の動向と問題	97
(1) 2004年 軍縮・軍備管理の動向	97
(2) 世界の軍事支出費、2003年11%増	98
(3) 米露、戦略攻撃戦力削減条約、発効したが	98
(4) CTBT、調印後10年、未だ発効の目途立たず	99
(5) NPT、2005年再検討会議向け	99
(6) WMD、不拡散決議速に採択、取締り強化へ	100
(7) ジュネーブ軍縮会議 (CD)、8年連続成果なし	100
(8) 対人地雷禁止条約発効して5年、65か国廃棄、なお2億個	101
(9) 地球温暖化防止、京都議定書2005年発効へ	101
(10) 通常兵器の輸出入、再び活発化、中露に注目	102
 8. 日本をめぐる新しい動きと問題	104
(1) 2004年、主な安保・防衛問題は	104
(2) 国防の基本と政策の基本方針は	105
a. 憲法改正問題、ようやく始動	
b. 武器輸出3原則、一部緩和へ	
c. 6月14日 有事関連7法成立	
d. 12月10日 新防衛大綱及び中期防衛力整備計画決定	

e. 12月10日 テロ未然防止行動計画決定	
f. 12月14日 国民保護基本指針（要旨）発表	
(3) 国連及び米国等への国際協力	108
a. ゴラン高原UNDOFへ、派遣10年目	
b. 東チモールUNMISETへ2年3か月、無事任務完了	
c. 米テロ（タリバン等）壊滅作戦協力、4年目	
d. 米イラク復興支援へ、自衛隊サマワ派遣更に1年延長	
e. スマトラ沖大地震・大災害へ緊急援助	
(4) 日米、21世紀より緊密化、共同体化へ	110
(5) 当面する安保・防衛問題、山積	111
a. 主な安保・防衛問題は	
b. 国際法規、慣習に準拠、嚴重対処不可欠	
(6) H2A打上げ、技術立国名誉掛け、努力を	113

第2部 世界軍事情勢年表（2004年1月～2005年1月） 田尻 正司…115

第3部 資料 田尻 正司…223

池上 貞男

1. 第30回主要国首脳会議の主な宣言等	224
2. 2003～04年 地域紛争の現状	225
3. 2004年 イラクをめぐる主な動向	251
4. 2004年 イラク基本法（暫定憲法）要旨	256
5. イラク国家安全法要旨	256
6. 2004年 イラクWMD米ケイ調査団長証言と最終報告	257
7. 2003～04年 イラク戦争における犠牲（集計）の概要	258
8. 2001～04年 ロシアでの主なテロ事件	258
9. 2004年 パレスチナ自治・和平をめぐる主な動向	259
10. 1950～2004年 イスラエルの核をめぐる主な動き	263

11. 2004年	米英首脳、中東和平へ共同声明骨子	264
12. 2004年	安保理、駐レバノン外国軍の撤退決議	264
13. 2004年	インド・パキスタンめぐる主な動向	265
14. 2004年	アフガニスタンをめぐる主な動向	266
15. 2004年	アフガニスタン新憲法骨子	268
16. 2004年	中国と台湾をめぐる主な動向	269
17. 2004～08年	中台（米）間の軍勢力推定対比	271
18. 2004年	朝鮮半島をめぐる主な動向	272
19. 1993～2004年	海賊行為発生状況	275
20. 2004年	国連改革諮問委の答申要旨	275
21. 2004年	国連安保理の主なPKO派遣決議	276
22. 国連の平和維持活動（PKO）	最近の動向	276
23. 国連の平和維持活動（PKO）	の現況	277
24. FY2003～04	国連通常予算分担率と金額	279
25. 2003～04年	世界の難民の現況	280
26. 2004年	米大統領一般教書の骨子	282
27. 2004年	米新宇宙戦略の骨子	282
28. 2004年	米・アジア政策の新方向の骨子	282
29. 2004年	米大統領、対イラク主権移譲表明骨子	283
30. 2004年	米軍再編の4原則構想	283
31. 01. 9. 11	米中枢同時テロ独立調査委報告要旨	283
32. 2004年	米大統領、軍再編に関する演説要旨	284
33. 2004年	米共和党新政策綱領と大統領候補受諾	285
34. 2004年	米核拡散防止（PSI）新構想提案骨子	285
35. 大量破壊兵器（WMD）	不拡散決議要旨	286
36. 2004年	露大統領、対テロ国家方針骨子	286
37. 中国憲法一部改正の要点		287
38. 2004年	中国全人代政府活動報告骨子	287

39. 2004年 中国、中央軍事委員会の新メンバー	288
40. FY04 中国防衛白書と国防費増額の動向	288
41. 1950～2004年 中国人民解放軍兵力削減の流れ	289
42. 2004年 中朝首脳会談の要旨	290
43. 2004年 中国の核ミサイル等開発と保有状況	290
44. 2004年 陳水扁台湾総統再選と2期目就任演説	292
45. 2004年 ASEAN 拡大首脳会議声明、行動計画等要旨	293
46. 2004年 ARF 閣僚会議議長声明骨子	294
47. 2004年 APEC 閣僚・首脳会議声明、宣言等骨子	295
48. 2002～04年 北朝鮮のミサイル開発・保有の概要	296
49. 2003～04年 北の核問題めぐる6か国協議要旨	297
50. 2004年 核開発・保有・疑惑国等の現状	298
51. 1952～2004年 欧州連合（EU）の歩み	299
52. 2004年5月. EU新加盟国の人口とGDP	300
53. 2004年 EU憲法条約要旨	300
54. 2004年 米・EU首脳共同宣言骨子	301
55. 米ケリー博士自殺調査報告要旨	301
56. 1965～2004年 主な火星探査機の歴史	302
57. 核保有5か国の戦略核弾頭保有数の概要	302
58. 1999～2003年 主要通常兵器の主な供給・受領国	303
59. 2004年 防衛大綱と中期防の概要	304
60. 2004年 テロ未然防止行動計画の主な措置	305
61. 2004年 自衛隊イラク派遣新基本計画要旨	306
62. 2004年 日米首脳（小泉・ブッシュ）会談要旨	306
63. 1990～2003年 航空自衛隊の緊急発進回数	307

卷末付録

田尻 正司 …309

池上 貞男

1. 1993～2003年 世界の主要な軍事情勢年表	310
2. 1993～2002年 主要国の国力と軍事力の変化	330
3. 2003年 世界主要国の保有軍事力の概要	334
4. 2003年 国力と軍事力上位10か国	338
5. 世界の主要地域協力機構と加盟国	340
6. 世界主要国の略地図	344
 お知らせ	 352